



第4回  
佐藤 希 さん  
第25代高校生平和大使  
韮山高校1年



若者の力で  
平和を実現したい

核兵器廃絶と平和な世界の実現を訴えるために活動をする、「高校生平和大使」。その25代目に任命された佐藤さんが、世界平和に興味を持ったきっかけは、曾祖父父母が1945年に広島での原爆の黒雲を見たことや、ロシアのウクライナ侵攻だったそう。高校生だからこそできることがあると考え、平和大使に手を挙げたといいます。大使の活動を通じて、専門家の話を聞いたり自ら勉強したことで更に平和への思いを強めた佐藤さん。そして、今後の署名活動やディスカッション、講演会

などに意欲を燃やします。佐藤さんは、大使の活動だけでなく、勉強や部活の水泳など高校生活との両立を目指して奮闘中です。そんな多忙な生活の中での楽しみを尋ねると「友達との会話で盛り上がる」と「友達らしい一面も見せる一方で、自分が過ごしている環境に感謝する大人な一面も見せてくれました。将来の夢は、平和大使の経験をかし、獣医になってアフリカの動物を救うこと。学生時代に「平和」という大きなテーマについて取り組むことで、「世界に出たときに物おじしない自信をつけたい」と、佐藤さん。夢のフィールドは海の向こうに広がっています。市外在住の佐藤さんですが、あなたにとって伊豆の国市とは？と尋ねたところ「色々なことを感じさせてくれる場所」と答えてくれました。ゆつくりとした時間の流れを感じる自然。親戚や友人とのつながりを感じる人間関係。海外に出ることを夢見る佐藤さんにとって、ふるさとを感じる場所になるとうれしいですね。

連載  
ジャルガルの  
ほのぼの日記

第54回 ふるさと博覧会  
無事終了



国際交流員がモンゴルを紹介！

皆さん、サエンバエノーは、猛暑もようやく過ぎ去り、秋風の心地よい時節がやってきました。私は日本の秋が大好きです。さて、先月開催された伊豆の国ふるさと博覧会の体験プログラム「モンゴル文化に触れてみよう」では、たくさんの人に出会うことができました。台風8号の影響で予定を変更しながらの開催でしたが、皆さんのご協力が無事に終ることができました。

伊豆の国市友好都市交流協会の会長をはじめ理事の皆さん、(株)エンチョーホームアシストの皆さん、ボランティアの中高生、準備から当日まで、雨の中お手伝いいただいた皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。また、「サエンバエノー、ジャルガルさん、広報を読んでいるよ」と声を掛けていただく機会もあり、とてもうれしかったです。12日には、夏季合宿で当市を訪れていたモンゴル柔道アカデミーの小学生がモンゴル相撲を披露しました。日本の武道と文化だけでなく、モンゴルの文化を紹介することができて、彼らにとっても忘れられない思い出になったのではないかと思います。皆さん、本当に「ジャルタエ」。それでは、ジャルタエ。

協働まちづくり課  
055(948)1412



▲モンゴルおやつを試食



▲いずのくに特命大使「ベリる」も参加



▲モンゴル相撲の披露



▲ミニゲルの組み立て



▲モンゴル国柔道アカデミーの皆さん

かんたん手話講座 ②9 行きたい

障がい福祉課  
0558-76-8007 FAX 0558-76-8029

「行く」の手話は伸ばした人差し指を下から斜め前に出します。動詞に「好き」の手話をつけると「～したい」という意味になります。続けて表現しましょう。

9月23日は「手話言語の国際デー」です。手話という言語が音声言語と同等に扱われるようにと2017年に国連総会で決議されました。手話は、ろう者の人たちの大切な言語です。

